

多面的・多角的な思考を通して自己を見つめる 道徳授業の構築

— 質問紙調査から見える児童の実態をふまえて —

学籍番号 199356

氏名 山口真央

主指導教員 鈴木真由子

1. 背景

1.1 研究目的・意義

学習指導要領（平成29年告示）解説特別の教科道徳編では、学習活動について「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習」（p.4）と改めたと説明されている。そこで本研究では、道徳授業の中で自己の見つめ方と多面的・多角的な思考を育成するための工夫を注目する2つの軸として授業実践に臨む。本研究では、道徳におけるひとつの授業形態の提案を目的としており、自身の今後の教員生活にも活かすことができると考える。

また、本研究では、質問紙調査から把握できる児童の実態を基に、自己を見つめることができるような授業を試行実践する。授業の中で、児童が「分かっているつもり」であることを改めて問い直すことで、物事の本質を捉えることができる児童を育成したい。また、学習活動における多面的・多角的な思考を通して、自己の生き方について考えを深めるとともに、友達の意見や考え方を認め、尊重できる児童の育成もめざした。さらに、本研究で開発する授業によって、道徳性の涵養を図り、行動変容のきっかけとなることも期待したい。

2. 研究方法

2.1 研究方法

対象は、大阪市立の小学校第4学年3学級であり、昨年度第3学年から引き続き担当している児童である。本研究は、昨年度実施した質問紙調査や実習校の実態に基づき、①先行研究の整理、②今年度の授業前質問紙調査による児童の実態把握、③授業開発及び実践、④授業後質問紙調査による検証の4点によって実施する。質問紙調査は「道徳的価値」を問う調査Aを実施後、道徳的価値に対応させた、自身の「行動」を問う調査Bを実施する。調査A・Bは、道徳的価値と行動を捉えるときの混乱を避けるため、数日あけて実施する。調査は四件法による選択肢の単回答方式として、分析は回答結果を得点化し平均値を比較する。なお、授業実践の学級順は、公正・公平な教育の質を担保するため、開発した授業ごとに変更する。授業後も同様の調査A・Bを実施し、授業による変容の有無を検討する。授業分析のための主なデータは、ワークシートの記述内容とする。

2.2 道徳授業で「自己」を見つめる

授業では「自己」を見つめるために、毎時間以下の4つを実践した。

- ①心情円盤や数直線グラフなどを活用して、児童の気持ちを視覚化する。
- ②自分と向き合えるような発問をする。
- ③思考場面では、他者との対話で、自分の考えを伝え、相手の考えと比較する。
- ④思考の過程は板書だけでなく、児童の手元のワークシートに記入し、形に残す。

3. 研究成果・課題

3.1 本研究の成果

めざす児童像のうち、特に「自己の生き方について考えを深められる児童の育成」に関しては、3教材を通して個々の児童のワークシートに変化が見られたことから、「自己」を見つめるための4つの観点を意識した授業構築が非常に効果的であったと言えるであろう。授業を重ねるにつれて、ワークシートでは、時間配分は全ての学級で同じにもかかわらず、文字数が増え、言葉と教材、自己の3点をつなげて記述している様子から、思考が深まったと考える。このようなことから「多面的・多角的な思考」を通して「自己を見つめる」ことができたのではないかと推測される。

また、児童に対する授業後のアンケートでは、気持ちの視覚化に対する評価が高かった。この活動の目的が明確で、活動が活発であるほど、ワークシートの文字数が増加するという結果から、両者に関連性があることも示唆された。

「自己」を見つめる道徳授業の構築については、3回の授業を通してピンポイントに発問数を減らすことで、重要な発問に焦点を絞り、十分に思考する時間をとったことで、従来型の教材の起承転結の流れに沿った発問より、研究テーマである「自己を見つめる」に迫ることができたのではないかと考える。

3.2 本研究の課題

本研究では、「道徳性の涵養を図り、行動変容のきっかけとなる」ことも期待したが、この点については、課題が残った。本研究は、3つの教材で各学級3回ずつという限られた数での授業実践であったが、目的を達成するためには、数回の授業に留まらず、1年を通して授業実践をするべきである。本研究では、特定の道徳的価値のみの実施であり、どの授業でも多面的・多角的な思考と自己をみつめることを徹底した場合、どのような結果が出るのかについては検証できていない。まずは本研究で明らかにした4つの観点をもって、毎日児童と深く関わり毎週道徳の授業を行う担任教師の立場で、年度全体を通して道徳授業を実施し続ける必要がある。また、総合的な学習の時間とつなげて道徳の授業をより生かす時間を作ったり、授業で学んだことを教室掲示したりと、普段から児童に働きかけることで児童の行動に何かしらの変化を生むことは可能ではないかと考えている。このように、道徳授業とその他の授業、普段の生活とのかかわりと児童の行動変容については、来年度から教壇に立つうえで意識しながら実践していきたい。